

魅力あるアーキテクチャ、 プロダクト開発を目指して



NTTコミュニケーションズ（株）先端IPアーキテクチャセンタ
所長 得井 慶昌

NTTコミュニケーションズ の目指す物と先端IPアーキ テクチャセンタの役割

NTTコミュニケーションズは、「NWマネジメント」、「セキュリティ」、「ソリューション」、「グローバル」、「ユビキタス」の5つのコアバリュー（柱）を軸に、お客様に満足いただけるサービスを提供している。

先端IPアーキテクチャセンタは、先の5つのコアバリューに関連する技術の目利き、実用化に向けた技術開発、それらを用いた新しいビジネスモデルの開発を主な役割としている。この目的を達成するため、NTT研究所の研究成果、市中の技術、独自に開発した技術などを利用している（図1）。

当センタは、2002年に発足し、「安心」、「快適」、「簡単・便利」、「魅力」をキーワードに最先端アーキテクチャの創出、パイロットプロダクトの開発に取り組んできたが、昨年6月に、それまでの10プロジェクトを「映像コンテンツ流通」、「ユビキタス」、「セキュリティ」、「SIPコミュニケーション」、「ネットワーク基盤」の5プロジェクトに再編成し、取り組み分野を明確にした。

前記取り組みのほか、国民生活に欠くことのできないテレビジョン放送を支えているテレビジョン中継網サービスの安定的な運用も当センタの重要な役割のひとつである。特に、昨今国策とも言える地上波デジタルテレビのサービス提供に欠かせないデジタルテレビジョン中継網の開発

においては、当センタが中心となりNTTグループの総力を挙げて取り組んできたところである（図2）。

一方、当センタは、もう一つの顔として、弊社における先端技術やノウハウの蓄積場、技術者の育成の場としての機能を強化していくことも目指している。

このように、当センタは、多様な役割を担っている。

先端IPアーキテクチャセンタ におけるアーキテクチャ開発

当センタでは、先に述べた5つのプロジェクトの下、主に次に述べる分野のアーキテクチャ開発を進めている。

SIPコミュニケーションプロジェクトでは、従来の固定電話と同等の

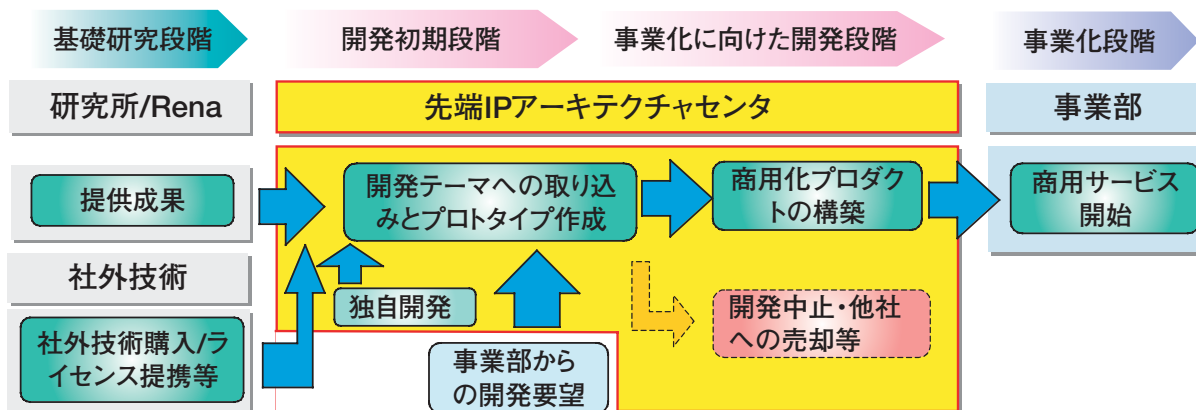


図1 先端IPアーキテクチャセンタの位置づけ

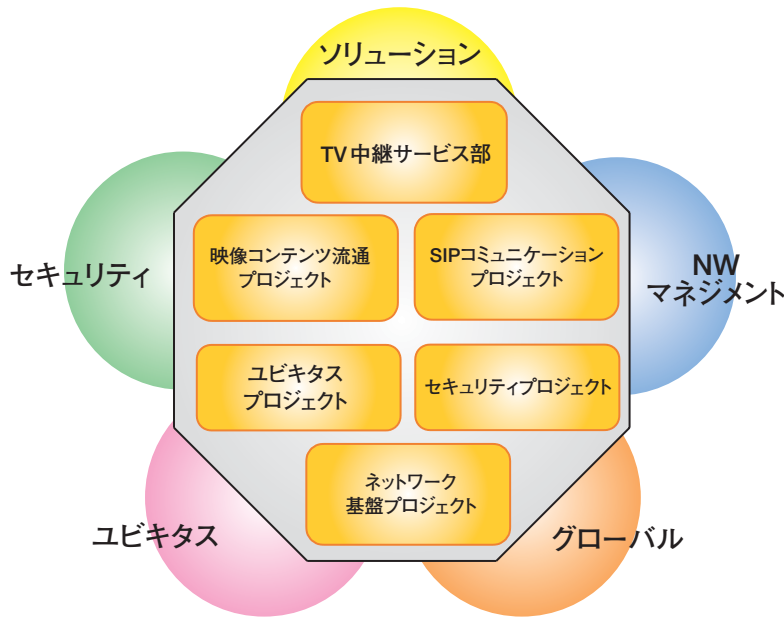


図2 NTTコミュニケーションズのコアバリューと
先端IPアーキテクチャセンタの業務領域

機能を提供できるよう法人向け、個人ユーザー向けVoIP (Voice Over IP) サービスの高機能化を進めてきた。今後は、固定電話の置き換えでないVoIPならではのサービスや、非音声系のサービス開発についても積極的に取り組んでいく。また、IP電話と携帯電話の連携を視野に入れ、VoIP利用端末の拡大やサービスの拡充を進めていく。

ユビキタスの分野では、「外出先から家庭内の家電へのリモートアクセス/コントロール」や「家電同士のインターネットを介したリアルタイム通信」といったことを安全に行う仕組みが求められている。弊社は、ネットワーク上の仕組みの1つとして、2005年11月、IPv6とIPv4を並存できる個人向けIPv6通信サービスの開始を発表したところであるが、ユビキタスプロジェクトでは、

IPv6通信環境も視野に入れ、コンシューマの利便性を向上するようなサービス（例えば、m2m-x）の開発に引き続き力を入れ、IPv6ネットワーク上で提供する新たなサービスの創出・普及を行う。

セキュリティの分野では、昨今ますます情報漏洩防止への関心が高まってきている。セキュリティプロジェクトでは、秘密情報の分散保管技術を用いて安全に情報を持ち運べる「セキュアUSBメモリサービス」を始めとして、情報が格納されているパソコンの安全な持ち出しを可能にする「セキュアドライブ」、ネットワークの脆弱性を診断し、適切な対処を促す「セキュリティ検針サービス」など、セキュリティ向上と作業性の確保の両立を図るサービスを作り出していく。

ネットワークマネジメントの分野

では、サービスのIP化、アクセス手段の多様化などを背景に、ネットワークの改革が求められている。ネットワーク基盤プロジェクトでは、次世代のネットワークを構築するために必要な技術であるGMPLS (Generalized Multi Protocol Label Switching)の実用化を検討しており、現在フィールド試験を行っている。既存網からGMPLS網への移行は、段階的に行われることになるが、ネットワーク制御・管理機能について引き続き検討を進めていく。

映像コンテンツ流通の分野では、今後IPネットワークを用いた映像の配信が広がっていくことが考えられる。また、映像を視聴する環境もテレビだけでなく、PCや携帯端末に広がりつつある。映像コンテンツ流通プロジェクトでは、利用者の嗜好や環境に合わせたコンテンツ配信のしくみを作り出していく。

3 まとめ

当センタは、研究開発組織としての自由度と、事業会社としての実用度のバランスをとりつつお客様のサービス向上を目指している。

ブロードバンドの普及、セキュリティに関する意識の定着、端末機器の機能向上など、通信を取り巻く環境は刻々と変化している。当センタは、そういった変化を取り入れることはもちろんのこと、変化を作り出していくことも念頭に置きながら、魅力あるアーキテクチャ、プロダクトの開発を進めていく。